

中学3年4組 社会科学習指導案

指導者 岡田 昭彦

第二次世界大戦後の諸改革の特色を考えるために「労働組合の育成」について探求することは、世界の動きの中で新しい日本の建設が進められたことを理解するための、問いを創造するのに有効であった。

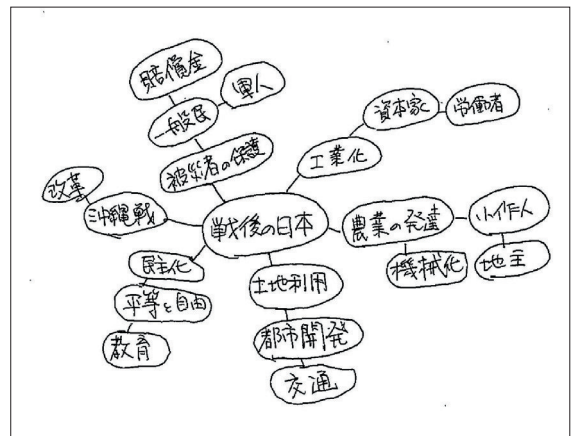
1 単元名 戦後の民主改革が現代に与えた影響

2 単元のねらい

我が国の民主化と再建の過程を踏まえ、第二次世界大戦後の諸改革を通して新しい日本の建設が進められたことを自分の言葉で表現できる。

3 授業の構想

(1) 右のイメージマップは、第二次世界大戦の中で「戦争によって、なにもなくなった日本は、戦後どのようなことをすると現代の生活につながりますか？」という発問に対するふりかえりである。「戦後の日本」を中心として、「工業化」「農業進歩」「土地利用」「被災者の保護」など、過去の戦争の学習で得た知識を生かしながら推測している。また、修学旅行で沖縄に行き、実際に糸数壕に入り、沖縄戦下での人々の壮絶なくらしの一端を実感した。社会科では右のイメージマップの先端にある「地主－小作人」「資本家－労働者」な



などの封建的な関係が民主的な関係となり、マップに表れることをめざしたい。つまり、具体的に「資本家－労働者－財閥解体」「地主－小作人－農地改革」のように描いてほしい。これらの改革により戦後に現代社会の骨組みができ、だからこそ現在でも立場の弱い人々が生活向上のために行動できるような社会になったことに気付く姿を期待したい。そして、本題材の学習が自分のくらしや生き方の見識を広げるものであって欲しいと願っている。

(2) 本単元は、現代社会の骨組みができた戦後の民主改革を扱っている。対日占領には二本の柱があった。日本が軍国主義国家として復活する可能性を絶つため「非軍事化（平和的生産的な生活）」、そして日本社会の徹底した「民主化」であった。そのため、GHQは憲法の草案を示し、徹底した民主化と戦争放棄をうたった日本国憲法を成立させた。そして、労使関係の近代化、農地改革、男女の平等化、国家神道の廃止、教育の国家支配からの解放、財閥解体などの改革によって骨組みは確立していく。その結果、日本はわずか70年の間ですばらしい復興を遂げている。このことから、生徒が現在の日本の基盤を考える上で、自分のくらしや生き方の見識を広げ深めることができる教材であると考えた。本単元で現代社会の骨組みとなる国際情勢や諸改革の特色つまり新しい日本の基盤を、そして次の単元で高度経済成長から現代社会へのつながりを扱う構成を考え、より「民主化」のために様々な改革をし、今の日本があることが考えやすいようにした。さらに、メーデーのような集会・デモ行進、そしてストライキといった労働争議の歴史的意味を解明しながら、日本の「民主化」とつなげていきたい。そして、一人一人が問いをもち続けられるよう、新聞記事を拡大して視覚的にうたえたり、関係の資料を集め自作資料集

を作ったりして、いくつかの資料どうしの関係を読み取りやすくし、社会科がめざす姿に近づけていきたい。

(3) 本単元を展開するに当たり、一人一人が問いをもち、追求する力を高めるために、以下に留意したい。

① 自分のくらしや生き方につながる単元を貫く課題と社会的事象と向かい合える資料

単元を貫く課題は「どのような改革をすると、わずか70年の間に今のような社会ができるのか」である。この問いを生徒の活動から生まれるように仕掛けたい。そして、自分の生き方にいかし、先人の努力や苦勞を知り、よりよい民主的な社会をつくる一員として育てたい。また、「民主化」のための改革の効果を探求できるように資料を準備し、具体的な社会的事象を通して「民主化」を理解できるようにしたい。また、子どもたち自身が生きている現在の社会についてより深く理解し、より深く考えるための問いを創造することを大切にしたい。

② 生徒の固定概念をくつがえす資料の提示と知識をゆさぶり問いを創造する工夫

一人一人が問いをもち、追求する力を高めるためには、いかに生徒の固定概念をくつがえすかが重要である。もしくは生徒の考えをゆさぶることにより、さらに調べてみたいと思えるようにすることである。そのためには、単元構成で多くの事象を取り上げるのではなく、戦後の「民主化」のための改革の効果を考えやすい特色ある事象を取り上げ、諸改革の特色を学習できるようにする。また、日本国内だけで諸改革が進められたという固定概念をくつがえすことができる資料を準備し、諸改革の背景には国際情勢があり、国際関係と関連付けて考えたいようにする。さらに、問題を解決した気になっている生徒に「本当に大丈夫か」問いかけ、ゆさぶり、他者の意見を参考にし、自分の考えを広げ深める努力を促すようにしたい。そして、問いをもつと同時に追求し、必要な資料を取捨選択したり、他者の意見を聞き入れ、自分の考えを変容させ課題を探求していくようにしたい。

4 展開計画（全4時間 4／4）

次	主な学習	時	具体的な学習・内容
1	日本国憲法	1	・日本国憲法三大原則，戦争放棄による防衛をもとに，国際情勢の中の日本という視点で日本の政治改革について考察する。
	冷戦と国際社会への復帰	2	・我が国が独立を回復して国際連合に加盟し，国際社会に復帰したことを米ソ両陣営の対立に視点を当てて考察する。
	戦後の諸改革の非軍事化と民主化の意義	3	・戦後の諸改革（軍隊の解散，戦争指導者の追放，極東国際軍事裁判，女性参政権，財閥解体，農地改革，教育改革，労働者の団結，労働組合の組織化）の特色を理解する。
	戦後の諸改革が民主化に果たした役割	④	・労働者の団結，労働組合の組織化を通して，戦後の諸改革の柱である「非軍事化，民主化」について世界情勢と関連付けて，資料を元に自分の言葉で「民主化」について語れるようにする。

5 本時の学習

(1) ねらい

第二次世界大戦後の労働者について権利拡大を認めたアメリカの目的を考え、国際情勢の中で日本がアメリカに求められた改革の理由を多角的に探求し、戦後の諸改革が現代の民主化の骨組みになっていくことを自分の言葉で語ることができる。

(2) 展 開

学習場面と子どもの取組	教師の支援と願い・評価
<p>1. 前時の五大改革指令などを振り返る。 現在（2014年）の労働運動の写真（映像）を見て、労働組合はどのような目的をもち、労働者は資本家（会社）になにを要求しているのか、確認する。</p>	<p>1. 前時の五大改革指令を振り返ることで、労働三法の成立によって、集会やデモ行進、ストライキをアメリカや日本政府が認めるようになったことを確認する。</p>
<p>なぜ、アメリカは日本に「民主化」を求めたのだろう</p>	
<p>2. なぜ、アメリカは日本に「労働組合の育成」つまり「労働者の権利拡大」という改革を求めたのかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・労働者の生活向上による内需拡大。 ・軍部を支えた資本家の弱体化。 ・財閥解体、農地改革には共通性がある。 <p>3. 吉田首相がストライキやゼネストを否定している新聞記事を読む。また、2・1ゼネストが直前にマッカーサーにより中止になった事実を知り、浮かんできた「なぜ？」を調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・米ソの冷戦を見据えたアメリカの行動。 ・ロシア革命の影響による社会主義の広がり懸念。 ・労働者や共産党による国体の変革への不安。 ・中国や朝鮮へ進出するソ連へのけん制。 <p>4. 今日の学習の振り返りをする。どうして日本は民主化できたのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民主化のためにアメリカの進めた様々な改革が、今の日本の基盤になっている。 ・アメリカは民主的な国に日本がなってほしいという願いよりも、味方をつくりたかったという気もする。でも、そのために民主化できた。 	<p>2. 日本の民主化を進めるためであることに気付くような資料を準備し提示する。そして、民主化を進めるために、労働組合の結成を奨励し、集会、デモ行進、ストライキなどを認めたことを労働三法から確認する。</p> <p>また、財閥解体、農地改革の共通性に気付くような資料を準備しておく。</p> <p>3. なぜ、戦後首相は権利を否定するようなことを言ったのか疑問をもてるようにする。</p> <p>また、新聞記事を自作し、拡大して提示する。さらに国際関係も調べやすくするために自作資料集を作成する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">評価の観点 (社会的な思考・判断・表現)</p> <p>戦後の民主化や再建の過程について、自分の言葉で語ることができる。</p> <p style="text-align: center;">【評価方法：発言・ノート・資料集】</p> <p>支援</p> <p>資料の見方・考え方など、読み取り方を丁寧に教授し、他者との関わりで自分の意見が言えるように文字にする。</p> </div>

(3) 本時で目指す子どもの姿

◎戦後の「民主化」のための改革について「問い」を創造し、国際社会の中での民主化や再建の過程を自分の言葉で語り、自分のくらしや生き方の見識を広げ深めようとする姿

【中心となる資料】

1947年1月1日（昭和22年）、吉田首相は「労働争議、ストライキ、ゼネストを頻発せしめ、いわゆる労働攻勢、波状攻勢などと称して、市中に日々デモを行い、人心を刺激し、社会不安をおこしてあえて省みない者があることは、私のまことに意外とし、また心外にたえぬところである。私はかかる不逞（けしからぬ）の輩が、我が国の中に多数ありとは思えない。」と掲載された吉田首相の発言の新聞記事。